

豊かな自然と歴史のこころがつくる活力のあるまち

とえだ

Soeda
Public
Relations



●特集

あの日、山が割れた

二又トンネル爆発事件から70年

爆発前の山

爆死した姉が、夢に出てきて、学校へ出勤する私に言うのです。
「そんな鞆を持って・・・人が贅沢と言って笑うよ。ゲートルを巻かんね。戦闘帽は？
空襲のときは生徒が先よ。あんたは、一番後で退避するんよ。……はい、水さかずき……」
あの世で姉は、戦争の怖さを引きずり、あの時の不安、恐怖、痛さ、苦しさ、無念さを、
今なお、あの世で味わい続けているのでしょうか。
死者147人とも、時間が止まり、あの時のままの状況の中で生活しているのでは、と思ってしまう。
衰れとしか言いようがありません。
生きていることは幸いです。変わっていく世の動きの中で自分をコントロールできるから。
こう思いながら書きたくないことを書いてみました。

(絵・文 佐々木盛弘著「三発目の“原爆”」より)

NOV.2015

12

No.650



↑爆発から2日後の11月14日、崩壊した土砂の中を捜索する警防団員（現・消防団）

●占領軍のずさん処理で多くの犠牲者

住民は当初、占領軍から警察官を通じて「焼却は新聞紙を燃やす程度」と聞かされていました。実際に占領軍はこの時、周辺の住民を避難させることなく処理を行い、また、事後処理を添田警察署の警察官に任せ引き上げていました。その後に大爆発が起き、多くの犠牲者がでました。

【爆発による被害状況】

死者	死者	家屋被害
147 人	149 人	135 戸

●国に対し訴訟、住民が逆転勝訴

戦後の混乱期で占領下という特別な状況でありましたが、十分な救済措置がとられませんでした。そのため、昭和23年11月、占領軍に危険を知らせなかった警察の注意義務違反により大惨事が起きたとして国に対して損害賠償を請求。この訴えは、加害者は占領軍にあるとされ、棄却されましたが、第2審の東京高等裁判所は国の過失を認めました。国側は上告しましたが、昭和31年4月に最高裁判所が棄却したため、被害住民の勝訴となりました。



爆発で山は2つに裂け、民家は吹き飛び、橋は破壊されました

●特集 二又トンネル爆発事件から70年

あの日、山が割れた



トンネル内の火薬類爆発 山里が砂漠と化す

●死者 147人、負傷者 149人の大惨事に

戦時中、旧日本陸軍は戦火を逃れるため小倉で保管する大量の火薬類を二又トンネル内に隠匿（いんごく）しました。戦争が終わり、占領軍がトンネル内の火薬類を焼却処理しようとした際に大爆発。衝撃で山は割れ、激しい炎と轟音に包まれた静かな山里は一瞬のうちに砂漠と化しました。



戦時中、大量の火薬類を 小倉から二又トンネルへ

太平洋戦争末期、旧日本陸軍は小倉で保管する火薬類を米軍の空爆から避けるため、山間地の二又トンネルと吉木トンネル内に隠匿することに決めました。当時、この両トンネルは、完成していましたが、日田彦山線の彦山駅・宝珠山駅間は未開通のまま利用されておらず保管場所として最適でした。旧日本陸軍は昭和19年7月から翌年2月にかけて火薬類約550トンを列車で彦山駅まで輸送、そこから人力とトロッキでトンネル内へ運びこみました。

噴き出す炎、響く轟音 死傷者296人の大惨事

終戦からわずか3か月後の昭和20年11月8日、添田警察署で旧日本陸軍から占領軍へトンネル内に保管していた火薬類の引き渡しが行われました。

占領軍による火薬類の処理は、同月12日午後1時から吉木トンネル内の火薬類に点火され、その後、3時頃に二又トンネルでも同じように行われました。吉木トンネルでは、その後約1か月余りの時間をかけて燃え続けました。しかし、二又トンネルでは火薬の種類や保管状況が異なっていたため、予想を超える大きな爆発となりました。トンネル口から噴き出る炎は次第に大きくなり、川の対岸にある100メートル先の民家に燃え移りました。

午後5時15分、大地は揺れ、轟音とともに、トンネル内の火薬類が大爆発。山は二つに割れ、民家を吹き飛ばし、大量の土石や不発弾などが人々の頭上に落下してきました。爆発の衝撃はすさまじく、轟音は、北は福岡、南は別府まで届いたと言われています。

爆発による被害は、死者147名、負傷者149名、家屋全半壊135戸。当時、約2千あったといわれる占領軍による被害の中では、その規模、被害の大きさは国内第一位と言われています。

147人の犠牲者を供養する慰霊祭



●二又トンネル爆発事件慰霊祭

爆心地のそばにある昭光寺では、慰霊碑が建立され、犠牲者を供養する法要が毎年、営まれています。今年も11月12日に昭光寺住職の延塚知道さん(京都府・大谷大学教授)や遺族、関係者の皆さんが亡くなった147人を追悼しました。



昭光寺住職 延塚知道さん



当時の惨劇を語る勇芳行さん

147人の犠牲者供養、慰霊祭

落

合地区の昭光寺で11月12日、慰霊祭が営まれ、爆発で亡くなった147人を供養しました。田川市郡から集まった10人の僧侶によるお経が読まれると遺族は静かに手を合わせていました。「子どもの頃から可愛がってくれた人や、そこに座って、わたしの話を聞いてくれてたおばあちゃんがいなくなるのがさみしいよ」と語る延塚住職。今年は、出席者の中から当時の状況を知る人がその時の惨劇を語りました。

国

破れて山河ありと詩には詠まれているが、山河までもぎ取られ、家族を亡くした家庭があまりにも多い」と語った勇芳行さん(上落合一)。当時、田川市にあった土木事務所に勤務していました。仕事を終わり、最終列車で帰宅途中に乗り合わせた乗客が阿蘇山が爆発した、彦山で大爆発したと口々に語っており、二又で事件が起こっていることを知ったそうです。「列車は榊田駅で停車し、そこから走って家路に

向かっていると何台ものトラックとすれ違った。爆発の負傷者を病院まで運んでいたのだと後で知った。彦山駅前には降り着くと今の彦山総合センターの前は、暗闇の中に何十体もの犠牲者や負傷者がいて戦場のような光景だった。「幸いにして、家族は一命を取り留めたが、家が全壊したので、防空壕で夜を明かした。翌朝、改めて見た集落の変わりように驚き、声さえ出なかった」と勇さんは話してくれました。70年前の惨劇を知る人は年々、少なくなってきたっており、その体験談は大変、貴重なものでした。

三好 定省^{さだみ}さん(享年37歳)

激戦地の沖縄から無事復員し、家族と幸せな生活を送るはずでしたが二又トンネル爆破事件の犠牲となり37歳の若さでこの世を去りました。三好シズコさんは「物静かで、とてもやさしい人やったよ。お酒は飲まんかったね」と夫の定省さんのことを話してくれました。



犠牲者の名前が刻まれた慰霊塔

爆心地付近の昭光寺の境内には、犠牲者147人の名前が刻まれた慰霊碑が、遺族の手によって建立されています。

戦地から無事帰還し、家族と幸せな生活を送るはずだった

激戦地の沖縄から無事に復員した夫の三好定省さんを二又トンネル爆発事件で亡くした、今年で101歳の三好シズコさん。終戦直後の混沌とした時代、爆発で一家の大黒柱を失った家族たちには、大変、厳しい生活がまっていました。

炎が、爆風が、土石が家族の幸せを壊した

戦地から復員

3か月後に爆発の犠牲に

「爆発のことは、あまり思い出したくないね。とりあえず、長い間苦勞しましたよ」おだやかに、優しい口調で話しはじめてくれた三好シズコさん。終戦後、夫の定省さんが激戦地の沖縄から無事に帰還。やつと訪れた平和に安堵しながら、定省さんや3人の子ども、定省さんの母親と6人で暮らしていました。しかし、予期せぬ爆発が幸せな家族を襲いました。

運命の日となった11月12日の夕方、トンネル口から噴き出す炎が徐々に大きくなり、民家に延焼。危険を感じた定省さんは「危ないから帰れ」と10歳の長男に告げたそうです。それが家族が聞いた定省さんの最後の声になりました。



三好シズコさん(101歳・上落合一)

定省さんは、シズコさんのおなかに宿っていた4人目の子どもに会うことはできませんでした。1歳の赤ちゃんを抱きかかえシズコさんは、姑や子どもと一緒に必死に逃げました。直後、地響きとともに大爆発を起こし、強風で吹き飛ばされ、その後から火の粉や土石が雨のように降ってきたそうです。シズコさんや子どもたちはなんとか無事でしたが、定省さんは大けがをし、病院に搬送。病院でシズコさんに看取られ、静かに息を引き取りました。

最後まで貧乏したよけど、今は幸せやね

働き盛りだった一家の大黒柱を失った家族。シズコさんは、姑に3人の子ども、おなかに授かった新しい命を守っていかなくてはなりません。そこで、豆腐を作り、生計を立て始めました。毎朝4時から石うすで豆をひき、山からの湧水で家族の服を手洗い、昼は稲作に追われる日々。爆発前に住んでいた家は崩壊したため、8畳と4畳の2間の家に家族6人で暮らしました。「手をかけると倒れそうな柱でね。雨漏りがして、たらいを置くと寝るとこがない。冬は

家の中まで雪が吹き込んできて、それは寒かったよ」と語る長女の伊原和子さん(上落合一)。爆発で多くの人が家族を奪われ、どん底に突き落とされました。十分な補償も得られないまま、それでも皆さんは必死に生きていました。苦しい毎日の中で、助けられることもありました。出産のため、どうしても農作業ができないとき、地域の皆さんが自分たちの作業が終わった後、暗い中をカンテラを照らしながら、シズコさんの田畑を手伝ってくれていました。シズコさんは「苦しい時でも皆さんに助けられました」と当時を思い出して、笑顔を浮かべていました。「貧乏もしたし、病氣もしたけど、今は幸せですよ」とやさしく語るシズコさんは今年で101歳。現在は、5人の孫や11人のひ孫の成長に目を細めながら、落合の自宅で静かに暮らしています。定省さんは、戦地からいつも故郷の家族を思い、なんとか命をつないで復員したのではないでしようか。その定省さんを襲った悲劇と家族の苦勞は計り知れません。「やさしい人やったよ」。おだやかな顔つきのシズコさんは、定省さんを思い起こしているようでした。

※携帯用の石油ランプ。炭坑内での作業のときなどに使われた



【三発目の“原爆”】

元添田町教育長の佐々木盛弘さんが、当時を回想し、爆発の惨状と自分をかばい亡くなった父親との最期の瞬間を子どもの目線で描いた人権絵本。父親の50回忌記念に制作された私家版に基づき、書き下ろし原画とともに、福岡県人権研究所から刊行されています。

50回忌に制作

三発目の「原爆」

小学校1年生の時に母親を病気で亡くした佐々木さんは、爆発で父親とお姉さんを亡くしました。爆発時の辛い記憶を思い出しながら描かれた「三発目の原爆」は、父親と姉の50回忌にあわせ制作。落合の里にキノコ雲の黒煙が上がり、爆発の悲惨さと傷跡の深さを原爆になぞらえています。この本が制作された20年前まで佐々木さんは爆発のことをあまり話したくはなかったといえます。それでも書くと思ったのは、この事件、そして、戦争のことが風化されることを懸念したからです。佐々木さんは、事件や戦争の事実を大人の責任として、子どもた

ちに語り継いでいく必要を感じました。

山が爆発し、大切な家族を亡くす

あの日、好奇心で見に行ったトンネルの状況が一変。「早く、うちに帰りなさい」厳しい口調で父親から言われ逃げ出しました。地響きと共にトンネルから火炎が吹き出し、佐々木さんの方に迫ります。父親が覆いかぶさり、土手に身を伏せたとき、父親が言いました「じつとしときなさい。心配せんでもいい」。タオルや上着をかけてくれる父親。いつも厳しかった父親の優しさを感じました。

直後に大きな揺れ感じた佐々木さんには、父親の腕の間からキノコ雲の黒煙と大量の岩石や

悲劇を子どもたちのため 未来へ語り継ぐ

小学校5年生のときに爆発で父親と姉を亡くした元添田町教育長の佐々木盛弘さん（上落合一）。

当時を回想しながら人権絵本“三発目の原爆”を描いた佐々木さんは、この事件をとおして、戦争の愚かさと平和の尊さを未来へ語り継いでいます。

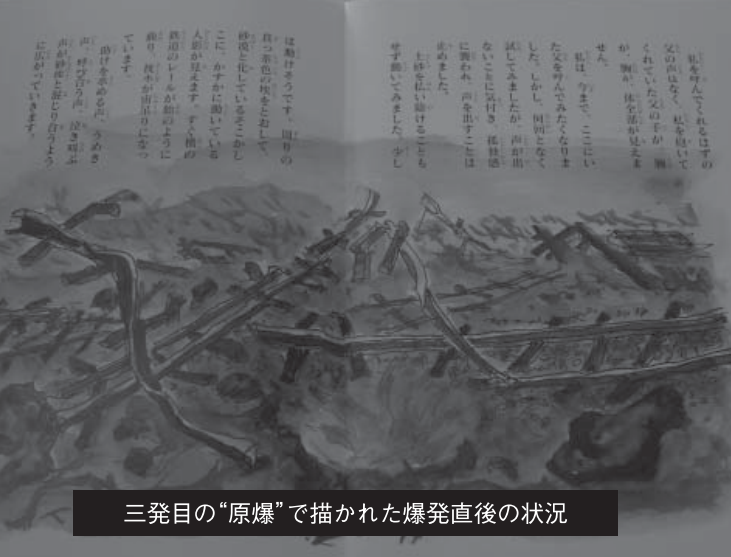
戦争のない 未来のために

大木が舞い、雷電が走っているのが見えました。気がつくとう父親の姿は見えなかったそうです。仮病院で治療をうけた佐々木さんのケガは左半身に集中。右側は父親が守ってくれていました。病院で「痛い」という言葉は使わず、ただひたすら我慢し、家族の迎えを待った佐々木さん。しかし、10日後に親戚から父親と姉の死を知らされました。最後まで優しく佐々木さんを包んでくれた父親は即死。倒壊した家にいた姉は土砂に埋り、窒息死していました。

佐々木さんの同級生も含め、落合小学校児童29人もこの爆発の犠牲になりました。戦争の終わった後、平和が訪れるはずでしたが、悲しくも戦争の犠牲となり、この世を去りました。

爆発から70年目となった今年、11月に町立図書館では、三発目の「原爆」の原画展やギャラリートーク、佐々木さんによる講演会を開催しました。佐々木さんは「爆発は戦争が原因。悲惨な戦争の事実を大人の責任で語り継がなければならない。そして、世界を見据え、人間として、いかに言動すべきかを考え、行動する人を育てなければならぬ」と未来へ語り継いでいます。

戦後70年、そして爆発から70年たちました。戦争を知らないわたしたち世代が、先人たちの貴重な体験を語りうけ、記憶し、心に刻み続ける必要があるのではないのでしょうか。



三発目の“原爆”で描かれた爆発直後の状況



爆発から2日後の割れた山と崩壊した家屋



三発目の“原爆”のギャラリートーク



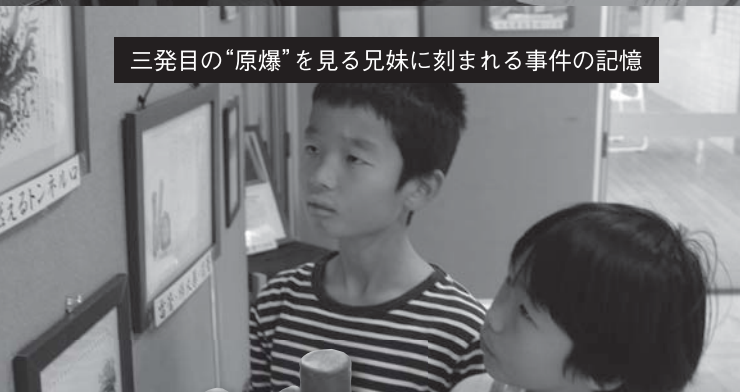
←閃光に向かって走れ（文春文庫）
先日、亡くなった作家の佐々木隆三さんは、爆発事件を題材に短編小説を執筆。短編集「閃光に向かって走れ」の中に納められています。

【特集・あの日、山が割れた／参考資料】
郷土史誌そえだ第10号（添田町郷土史会）／三発目の“原爆”（佐々木盛弘著・福岡県人権研究所刊行）／ああ!!5時15分（昭光寺）／添田町史（添田町）

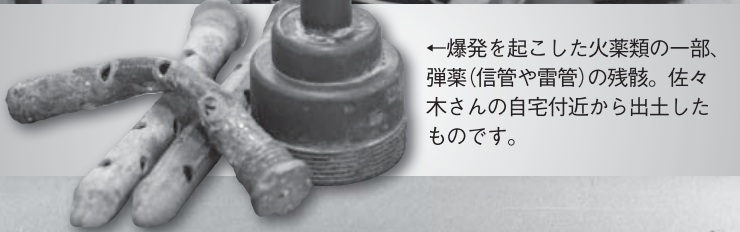
平和の重み、命の重み、それらを受け継いでくれた先人たちを私たちは忘れない



佐々木さんの体験談に静かに耳を傾ける皆さん



三発目の“原爆”を見る兄妹に刻まれる事件の記憶



←爆発を起こした火薬類の一部、弾薬（信管や雷管）の残骸。佐々木さんの自宅付近から出土したものです。



爆発し、割れた山。点線が元の山のかたちです



70年経ち、山は緑に覆われ、今日も列車が走っています



順次届けています マイナンバーを配達中

図 役場情報広報情報推進係 (☎ 88-8444)

マイナンバー（個人番号）の通知は、住民票の住所地に簡易書留で世帯ごとにお届けしています。添田町では、マイナンバーをお知らせする「通知カード」が、先月の11月20日から順次発送されており、全世帯には12月上旬までには届く予定となっています。通知カードは大切に保管してください。

※10月5日時点の住民票に記載されている住所（居所）を登録された人は当該居所）に届きます。



受けとれなかった通知カードは 役場で保管している可能性があります

長期不在や住民票の住所地に住んでいない人、郵便配達期間に受けとれなかった人の「通知カード」は豊前川崎郵便局で1週間程度保管された後、添田町役場で3か月程度保管します。「通知カード」を受けとれなかった人は、添田町役場で郵便物を保管している可能性がありますので必ず連絡してください。



○受け渡し時に必要なもの

- ①運転免許証や保険証などの本人確認書類
- ②印鑑

※代理人（同居家族以外）は委任状の提出が必要です。

通知カードの受け取りなど 平日来庁できない場合、休日開庁します

添田町役場で保管している通知カードを仕事の都合などで、平日に来庁し受け取りできない場合、次の日程で休日開庁していますので、通知カードの保管の確認や個人番号カード申請の手続き方法などが分からない場合は利用してください。

○休日開庁日 12月19日(土)・20日(日) 9時～12時

○個人番号カード申請に必要なもの

- ①簡易書留で送付された通知カード書類一式
- ②本人確認書類（運転免許証やパスポートなど顔写真付きの書類1点、または国民健康保険証、年金手帳などを2点）
- ③印鑑

ピックアップ

まちのお知らせ&情報

INFORMATION



添田町介護予防ポイント事業 ポイント交換開始します

図 役場保健福祉環境課高齢者支援係 (☎ 82-1232)

町では高齢者の皆さんが、地域で健康に安心して生活できるよう、介護予防事業や支援事業などを行っています。そのひとつ、介護予防ポイント事業は、登録者が介護予防事業や老人クラブ活動、介護施設などでのボランティア活動などに参加した場合にポイントを付与しそのポイントが地域お買い物券に交換できます。今年度、介護予防ポイントの手帳を持っている人は下記の期間でポイントの交換を行いますので、忘れずに手続きをお願いします。

ポイント交換期間

平成28年 平日 8時30分～17時15分
1月12日(火)～3月25日(金)

※期限を過ぎると交換できません。忘れずに手続きしてください。

※ポイントは、500ポイントごとに500円分の商品券との交換となります。

ポイント交換場所

保健福祉環境課 役場①窓口 高齢者支援係

※元気倶楽部や健康体操教室の参加者は、教室時に集めます。

持参するもの

- ①介護予防ポイント手帳
- ②印鑑

手帳と印鑑を
お忘れなく



教育の
ひろば

図 添田町教育委員会学校教育課 (☎ 82-5963)

強い心と 友情を育てた 「立志の道」

この秋に町内の小中学校で行われた、運動会や合唱コンクール、音楽発表会などは子どもたちの成長を感じさせる大変すばらしいものでした。保護者や地域の皆さんに見守られ、これらの行事で育まれた努力や友情は、子どもたちには大変良い刺激になったものと思います。

1年の締めくくりの12月になりました。子どもたちにも今年1周年にやり遂げたこと、やり残したこといろいろあると思います。親子で一緒に今年を振り返り、来年の目標を探してみてもいいですね。

●そえだドリームプロジェクト 踏破鍛錬「そえだ立志の道」 みんなの中に芽生えた“立志”

10月21日から23日までの3日間に渡って、町内すべての小学5年生の児童を対象に行われた「そえだ立志の道」。強い心と友情を育てることを目的に今年で3年目の実施となります。3日間とも天候にも恵まれ、JR彦山駅から英彦山青年の家までの徒歩や、英彦山登山などを通して、最後まであきらめずに困難に立ち向かうことや、友達と協力し合うことを経験した児童たち。友達と一緒にチャレンジし、克服できた経験は、児童たちの中に「強い志」となって今後の成長の助けとなるものと思います。

●児童の感想（一部抜粋）

「登山は、きつくて倒れそうだったけど、頂上に着いてうれしかった。景色がきれいだった」
「早く帰りたいと思ったこともあったけど、楽しくて、帰るときには、帰りたくありませんでした」
「友達と励まし合いながら登ることができた」
「知らない学校の人と一緒に活動するのは緊張したけど、助け合いができたところや、人の気持ちを分かってあげることが成長できた」



みんなで目指すは英彦山山頂



コルクアートを楽しみました



励まし合って、踏破するぞ

●冬休みの過ごし方

冬休みは2週間ほどしかありませんが、クリスマスや大晦日、お正月と大きな行事が目白押しです。しかし、日が落ちる時間も早いため、子どもたちが事故や事件に巻き込まれる可能性も高くなります。保護者はもちろん地域の皆さんで子どもたちの見守りをお願いします。





かわいい園児と交流、楽しく介護予防 若返り教室の高齢者と保育園児が交流

11月9日、介護予防事業の若返り教室の参加者と5つの町立保育園の年長組との交流会がくるみ保育園の体育館で行われました。10人ずつ4つのチームに分かれて、裏と表を赤と黄色に塗り分けたカードを床一面に広げ、めくり合って数の多さを競うゲームをしたり、輪になって隣の人の指をつかんだり離したりするゲームを楽しむ皆さん。小さくかわいい園児たちの姿に教室の皆さんは目を細めながら、楽しいひとときを過ごしていました。



↑ 笛の合図で隣の人の指をつかんだり、離したりして楽しくレクリエーション

1年間無病息災でありますように 薬師堂秋季大祭

11月1日、上中元寺地区の薬師堂で、秋季大祭が行われました。上中元寺観光協会の山本文一会長が「一人でも多くの皆さんに、文化財の大切さを知ってもらえるよう、今後も活動していきたい」とあいさつ。多くの人が、1年間の無病息災を願い、参拝に訪れていました。式典後は、恒例の餅まきが行われ、地元特産品の物産販売や、ステージイベントの沖縄のエイサーや婦人会による踊り、バンドの演奏などが来場者を楽しませていました。



↑ 1年間の家内安全・無病息災を願い、参拝者が長い列を作っていました

↓ 11月19日に表敬訪問した福田優聖くん㊦。受賞に喜びいっぱいでした



ルールを守って、安全に車に乗ろう 中元寺小学校福田優聖くん表敬訪問

福岡県交通安全協会が募集した、第67回交通安全図画・作文コンテストの図画の部で、中元寺小学校2年の福田優聖くんが、優秀賞を受賞しました。「シートベルトをわすれない」の言葉とともに、紙いっぱいに車を描き、シートベルトの大切さを表現。11月16日に開催された福岡県交通安全県民大会の表彰式に出席した福田くんは「絵を描くのがとても好きです。表彰式では少し緊張しましたが、嬉しかったです」と笑顔で話していました。

↓ 3年ぶりに新調された大しめ縄のもと、アトラクションを楽しみました



秋深まる絶景の深倉峡で散策楽しむ 英彦山男魂祭

紅葉が見ごろを迎えた11月8日、深倉峡で英彦山男魂祭と慈母観音をまつる大きな窟「姥ヶ懐」で地元観光協会主催の深倉大祭が行われ、町内外から多くの観光客で賑わいました。赤や黄色の紅葉が美しく染まる中、風流な尺八の演奏に耳を傾けたり、子どもたちも一緒に風船アートを楽しんだりして、祭を満喫する参加者たち。会場では深倉名物の姥だんごやシシ汁、ヤマメの塩焼きなども好評で、訪れた人は晩秋の1日を楽しんでいました。

↓ 愛情詰まった美味しいお弁当に舌鼓をうつ来場者たち。シフォンケーキの販売もありました



英彦山に隠れ家ができました すすきのおうちをつくってみよう！

11月15日、英彦山青年の家で、たんと筑豊型住宅ネットワーク（荒木光子会長）主催の「英彦山すすき原野で自然にふれあう里山体験ツアー」の一環で、すすきの家づくりが行われました。福岡市や飯塚市などから30人ほどが参加し、すすきを刈って束ね、竹で作った骨組みに掛けていきました。飯塚市から子ども会に参加した石川奈美さん（小6）は「想像より大きい家ができてびっくりしました」と、話していました。



↓ 完成する
ころには晴
れ間も見え
始め、家の中
に入ったり
顔を出したり
して遊びました



↓ 秋晴れの中、購入した花や野菜などを両手いっぱいに持ち帰る来場者の姿が多く見られました



今年も賑わう里山の秋まつり 上津野収穫祭

紅葉が日に日に深まってきた11月3日、上津野村づくり推進協議会（松崎和彦会長）主催の収穫祭が、上津野活性化センター付近で行われました。地元で採れた新鮮な野菜やお米などの物産展や、イノシシ汁やおしろこなど、体が温まる食べ物の販売もあり、町内や北九州市、福岡市などから訪れた多くの来場者のお腹を満たしていました。花の競りでは、トルコギキョウやひまわり、アルストロメリアなどの丹精込めて育てられた花たちが次々に競り落とされたり、ヤマメ釣りでは、真剣な表情で釣りをする子どもたちの姿が多く見られたりと、大満足の1日となったようでした。



これからも楽しく長生きしましょう

老人クラブが高齢者施設を慰問

10月21日、昨年度創立50周年を迎えた添田町老人クラブ連合会(桑野裕之会長)が、奉仕活動の一環として、養護老人ホーム錦風荘と特別養護老人ホームそえだを慰問しました。老人クラブによる日本舞踊やフラダンスなどが披露されると入所者の皆さんからは、盛んな拍手が送られ、とても楽しい一日となったようでした。



↑優雅にフラダンスを披露する老人クラブの皆さん

趣向を凝らした作品が英彦山に集合

福岡クラフトフェスタin英彦山

秋の深まった11月6日から8日の3日間にわたり、ひこさん花工房で福岡クラフトフェスタが行われました。会場には、県内外の工芸作家20人による焼き物や木工、革製品など趣向を凝らして作られた個性豊かな作品が展示され、訪れた人は「材料から作品に仕上げていく工芸作家の丁寧な仕事に感動です」と話していました。



↑工芸作品が集合し、多くの人が足を運んだ会場

300人のボランティアが除草作業

油木ダムを美しくする会

11月1日、油木ダムを美しくする会(金子嶋身会長)による除草作業が行われ、北九州市や行橋市、九州電力のボランティアや桜の木オーナー、地元の皆さんが作業に打ち込みました。作業後には、山菜弁当やシシ汁、焼きシイタケがふるまわれ、参加者は津野の秋の味覚を味わいながら、作業での疲れを癒していました。



↑びっしり伸びた雑草を刈るボランティアの皆さん

農地の適正管理をお願いします

農地パトロール出発式

11月10日、農地パトロールの出発式が行われ、農業委員が、地区内の農地を見回り、違反転用がないか、また適正に利用されているか調査を行いました。遊休農地は火災や病害虫の発生原因になったり、隣接の住民や農地への悪影響を及ぼしたりする恐れがあるため、除草や病害虫駆除など、農地の適正管理をお願いします。



↑農地パトロールに出発する添田町農業委員

一致団結して響かせたハーモニー

添田中学校合唱コンクール

11月5日、オークホールで添田中学校の合唱コンクールが行われました。1クラスずつの学級合唱と、ブロック合唱が行われ、声に強弱をつけたり、口を大きく開けて表情にも工夫したりと、練習してきた成果を発揮した生徒たち。今年のテーマ「心に刻もう」の言葉どおりに、一人ひとりの思い出となったようでした。



↑表情豊かに美しい合唱を披露する生徒たち

山林火災に備え本番さながらの訓練

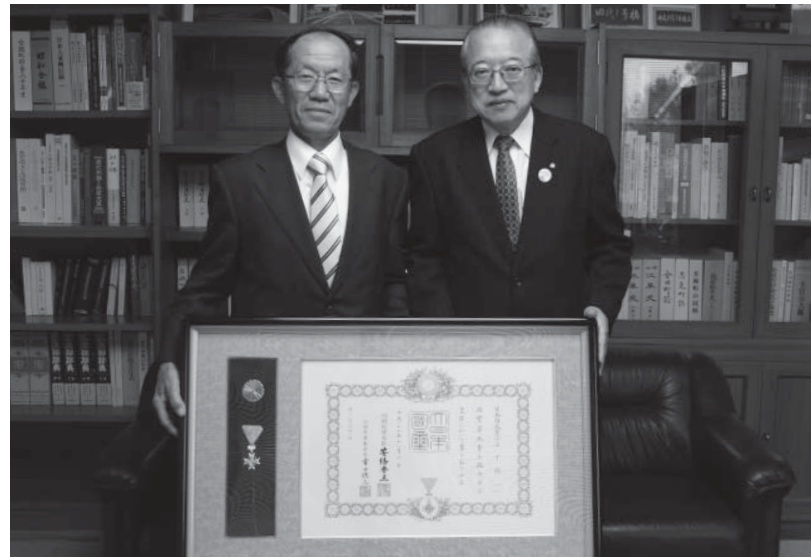
添田町消防団秋季消防訓練

秋の火災予防運動の一環として11月8日、添田町消防団(田中久美男団長)が上津野河川プール付近で秋季消防訓練を行いました。今回の訓練では、空気が乾燥し原野火災が発生し、山林への延焼の危険が高まっている事態を想定。各団員は、延焼の拡大防止と早期鎮火に向けて、本番さながらに消火活動を行いました。



↑指揮命令や人員配備などを確認しての消火活動

↓39年間、消防団員として災害の被害軽減や人命の保全などに尽力してきた山下政一さん



山下政一さん瑞宝単光章受章

秋の叙勲

昭和37年から平成13年までの39年間、添田町消防団で防災活動に取り組んできた山下政一さん(庄西)が、秋の叙勲で瑞宝単光章を受章しました。「昭和61年に起きた落合の山林火災が忘れられません。飛び火、延焼する中必死で消火活動にあたりました」と振り返ります。第2分団長を4年間務め、地域の安全や若手の育成にも傾注した山下さん。現在も添田町保護司会長や添田町就農支援推進協議会副会長として、犯罪者の社会復帰や新規就農者の指導、育成などに尽力しています。「地域の皆さんの支えで栄えある章を受けることができ、感謝しています」と語っていました。

これからも2人仲良く健康で

第45回金婚式

添田町社会福祉協議会(宇都宮多美子会長)主催の金婚式が11月6日、町民会館で行われました。式には、結婚50周年を迎えた夫婦25組と60周年を迎えた5組が出席。宇都宮会長が「これからも夫婦仲良く、奥さまはいつでも美しくいてください」と挨拶。竹野功一さん(英彦山)は「地域の皆さんに支えられて、夫婦仲良くやってこれた。今日という日を節目に、これからも1日1日を大切に仲良く過ごしていきたい」と謝辞を述べました。出席者は、仕舞、謡曲の余興や保育園児の歌や演奏などを楽しみながら食事をしたり、会話を弾ませたり、仲むつまじく過ごしていました。

↓夫婦で支えあい、力を合わせて、今日まで歩んできた結婚50年㊤と60年㊦を迎えた皆さん



↓「これからも添田町のスポーツ発展のために頑張っていきたい」と意気込みを語った小島さん



町のスポーツ普及に30年尽力

スポーツ推進委員表彰

30年もの間、スポーツ推進委員として地域スポーツ振興に貢献してきたとして、添田町スポーツ推進委員代表で添田小学校教頭の小島誠治さん(町三)が、公益社団法人全国スポーツ推進委員連合から表彰されました。11月20日、報告のため寺西町長のもとを訪れた小島さんは「子どもたちのためになればという思いから始めました。スポーツを通じて、色々な人と接することで、物の見方や人間観が広がり、親睦を深めていくのが楽しかった。これからは、未来の添田のスポーツ発展ためのビジョンを教育委員会と一緒に創っていったらと思います」と喜びを語っていました。

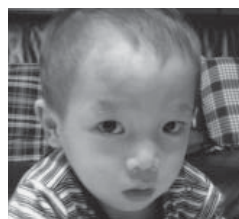
12月生まれ
HAPPY
BIRTHDAY

おめでとう



はな
三浦 花ちゃん
12月29日生 ③・榎田

花です。くるみ保育園の先生やお友達いつも楽しく過ごしています！じいじ、ばあば、ずっと元気でいて下さい。



てつや
荒木 哲也ちゃん
12月12日生 ②・下中元寺

てっちゃん2才のお誕生日おめでとう！うまれてきてくれてありがとう！



たまみ
藤本 珠実ちゃん
12月23日生 ②・峰地団地

大好きなココロネエネと仲良く元気いっぱい優しい女になってね♡パパとママは心桜と珠美の成長が楽しみです。 パパ・ママより

3歳までの
お子さん募集中！

1月生まれは、
12月10日困
までです！！

お子さんの写
真とメッセージ
を添えて、役場情報広報課
(☎ 88-8444) まで持参して
ください。

想いを込めて飛ばした風船
津野小学校で人権教室



↑差別がなくなり、みんなが笑顔で暮らしていけますように

11月4日、津野小学校で人権教室が行われました。人権擁護委員の皆さんから授業を受け、一人ひとりが違いを認め合い、幸せに輝いていけるよう学んだ後、全校児童 18人で校庭にでて、ひまわりの種と、人権を守っていこうという想いを込めたメッセージ付きの色とりどりの風船を、青空へと一斉に飛ばしました。

色彩豊かに細部まで描写した夏野菜
第27回MOA美術館田川児童作品展

添田小学校 6年生の宮田律音さんが、第27回 MOA 美術館田川児童作品展で田川市郡内の小学校から集まった 847 点の中から添田町長賞を受賞しました。宮田さんは「夏野菜のみずみずしさを色彩豊かに表現するため、細部にまでこだわりました」と喜びを語っていました。



↑宮田さんは、2年前に続いて2回目の受賞
添田町長賞

心ひとつにみんなで奏でるメロディー
第27回町内小学校音楽発表会

11月11日、小学校音楽発表会がオークホールで行われ児童の歌や合奏がホールに響き渡りました。この日に向けて、練習に励んできた児童たちが、心をひとつに合唱や和太鼓、ハンドベル、鼓笛などの演奏を披露すると訪れた保護者からは、温かい拍手が送られていました。



↑迫力ある演奏の真木小トランペット鼓隊

観光客に英彦山のことをアピールしました
落合小こてんぐ塾が英彦山をガイド

11月3日、英彦山神宮で落合小1年～6年の児童17人が観光ガイドに挑戦しました。児童たちは、こてんぐ塾で英彦山の歴史や自然を学んでおり、今回はその成果を観光客に披露しました。児童たちは、英彦山神宮奉幣殿や銅鳥居などの成り立ちや歴史をパネルなどを使って観光客に説明し、手作りのガイドブックを配りました。



↑パネルを使って、大きな声で説明するこてんぐ塾の皆さん

みんなでついたお餅をいろんな料理で堪能
中元寺小学校でふれあい活動

11月7日、中元寺小学校で、ふれあい活動が行われ、児童と保護者や地元の人たちが参加しました。火を起こし、児童たちが協力し、ぺったんぺったんと力強くついて丸めた出来立てのお餅を、その場で雑煮やおろし餅、きな粉餅にして食べました。参加した児童は「自分でついたお餅で作った雑煮は特別美味しいです」と話していました。



柄杓田小学校のみんなと駒打ち体験
津野小学校と柄杓田小学校の交流会

10月28日、津野小学校で北九州市の柄杓田小学校との交流会が行われました。添田町林業クラブ（小田宣和会長）の皆さんの指導で、2人1組のペアになって協力し、穴を開けたクヌギの木に金づちで一つひとつ駒を打ち付けていった児童たち。昼食には、石窯で手づくりピザを焼いて食べ、山間部の特色を生かして交流を深めていました。



↑2人ペアになって駒打ちした椎茸。おいしく育ちますように

文芸歳時記

【川柳 添田番傘川柳会】

絶やすには惜しい車窓の赤字線
小遣いがとりもつ母と子の対話
囑託の身分忘れて口を出す
幸せはほんとに酔った時だった
倦怠期背中合わせのすきま風

【俳句 添田福寿句会】

幸せはあるがままなり草紅葉
どこまでもつづく青空秋深し
椿の実戦中遥か髪洗ふ
生きながらへて身を案ず秋灯下

【俳句 天籟通信添田句会 大池青湖選】

柿たわわ宙ぶらりんの自己主張
秋は逝き人の輪つなぐ炭坑節
片足で立つてごらんとする案山子
十六夜坐らぬまゝの椅子ひとつ
思い出を棄てる終活秋桜
読める書の中まで咲いて野紺菊

濱田イサオ
中村ヤス子
奥田ミヨ子
伊川トシエ
諫山 速人
渡辺 恵美
安藤はじめ
熊谷トシエ
鶴原 幸江
諫山 静香
安永 藻香
宮崎 清美
牧野八寿子
森田 竹子
大池みどり

【短歌 春扇短歌会 筑紫支社】

さりげなく花瓶に入れしコスモスと
秋を語りぬ老い極め来て
秋の日の陽より続きの里の川
流れは澄みて鯉群れ泳ぐ
砂浜に寄せ来る波は脈うちて
安らかさ吾に伝へくれたり
若き日の思ひ出の服整理するも
捨てるもならず筆筭に戻す

●俳句・川柳を募集します

1月号に掲載する俳句・川柳を募集します。12月10日困までに役場情報広報課に連絡してください。

〒88-8444 役場情報広報課広報係（☎ 88-8444）

試験

自衛官採用試験

- ▼陸上自衛隊高等工科学校
- ▼とき 平成28年1月23日(土)
- ▼ところ 飯塚研究開発センター
- ▼対象者 平成28年4月1日現在、中学校卒業および卒業見込みの17歳未満の男子
- ▼受付期限 平成28年1月8日(金)
- ▼生徒説明会 12月6日(日)、13日(日) ①10時〜、②13時〜
- ▼飯塚地域事務所
- ▼自衛隊福岡地方協力本部飯塚地域事務所
- (☎0948-22-4847)

農業・林業

農業用免税軽油使用者証・免税証交付事務を行います

軽油には県税が課せられていますが、農業を営む人が農業用に使用するトラクターやコンバインなどの動力源として使用する軽油については、申請により軽油引取税が免税される免税証などの交付を受けることができます。

- ▼とき 平成28年2月17日(土) 9時〜11時30分、13時〜16時
- ▼ところ 福岡県田川総合庁舎
- ▼申請書提出期限 12月末まで
- ※詳しくは問い合わせください。
- ▼福岡県飯塚・直方県税事務所
- (☎0948-21-4905)

対し、各種手続き（共済手帳の紛失、退職金の請求など）の必要が生じた場合はできる限り速やかに対応したいと考えていますので、最寄りの支部または本部へ問い合わせてください。

保険・福祉

国民健康保険の特定健診、保健指導の個別健診を実施

特定健診は、メタボリックシンドロームや、生活習慣病の予防・改善に着目した健康診査です。毎年受診することで、健康状態をチェックできます。実施期間中はお近くの医療機関で受診できますので積極的な受診をお願いします。対象者には11月下旬に受診券を郵送します。



林業退職金共済制度（林退共）からのお知らせ

林業の仕事をしていたことはありませんか。林退共制度に加入していたが退職金をまだ受け取っていない人を探しています。以前林業の仕事をしていたが、自身が林退共へ加入していたか分からない人についてもお調べします。また、罹災した共済契約者および被共済者の皆さんに

田川普及指導センター

(☎42-1428)

団ボランティア研修係

独立行政法人医薬品医療機器総合機構救済相談窓口

ワクチン接種で何らかの症状を発症していませんか



平成25年3月31日までに、市町村の助成で、ヒトパピローマウイルスワクチン、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンのいずれかを接種後、何らかの症状が生じ、医療機関を受診した方は、接種との関連性が認められると、医療費・医療手当が支給される場合があります。請求方法など、詳しくは問い合わせください。

学校・子育て

「添田町子育て応援商品券」有効期限は12月31日まで

子育て世帯に交付している「添田町子育て応援商品券」の有効期限は、平成27年12月31日(日)までです。期限内に使用してください。また、商品券交付のときにお渡ししたアンケートを記入

添田町育英資金返還の未納者に督促状を送付します

添田町育英資金の返還については、計画的に納付されていると思いますが、未納者に対して12月中旬に督促状を送付します。今一度納付の確認をお願いします。なお、納付に関しての相談は、添田町教育委員会学校教育課教育総務係まで連絡してください。教育委員会学校教育課教育総務係(☎82-5963)

12月1日〜31日は人権擁護啓発強調月間です

期間中の主な活動

人権が尊重され、安心して豊かに暮らせるまちを目指し、町では、期間中次のような取り組みを行っています。主な人権課題は、同和問題や女性・子どもの問題、高齢者の問題、障がい者の問題、外国人・アイヌの人々の問題などです。一人ひとりが協力し、人権のまちづくりをすすめましょう。



- 広報紙による啓発
- 全世帯に啓発チラシを配布
- 町内主要箇所に啓発のぼり旗・懸垂幕を設置
- スーパー前など6か所で街頭啓発
- 公共出入機関など13か所で職場啓発
- 人権標語・ポスターの展示
- 人権講演会

人権講演会を開催

- ▶とき 12月8日(火)18時30分(開場18時)
- ▶ところ オークホール／入場無料・手話通訳あり

「ヒューマンライツから考える人権」
阿久澤 麻理子氏
Akizawa Mariuko

プロフィール
人間科学博士
大東大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了
大東大学法学部国際関係学科卒業
上智大学ボランティア会
豊前県立国際交流館で移住労働者の相談を受ける
1998年〜兵庫県立大学環境人間学部の教員(13年間)
研究テーマ 「人権概念の市民社会における浸透と受容」
「社会的現実」は人々の相互教育の中で構成される

創作落語「学校I〜みんながって〜」
川崎亭好朝氏
Kawasaki Kinsyo

プロフィール
福岡県立北九州視覚特別支援学校教員
2015年10月4日、「第7回社会人落語日本一決定戦」で第2位
志人演芸集団「川笑一座」を主宰
川崎亭好朝の芸名で敬老会や子ども会などの場で落語を披露
2004年度とびうめ国文祭アマチュア落語全国大会で優勝

団 教育委員会社会教育課人権啓発係(☎82-5964)

児童館の
クリスマス

クリスマスロビーコンサート

●内容 添田中学校吹奏楽部による演奏
●とき 12月19日(日) 11時〜11時30分
●ところ 町立図書館・児童館ロビー

観覧 無料★

クリスマス☆フェスタ2015

●内容 添田町虹の会によるおはなし、レクリエーション、マジックショーなど
●とき 12月19日(日) 13時30分〜15時30分(13時〜受付)
●申込方法 12月17日(金)までに電話か、小学校で配布する申込書に記入して申し込んでください
※参加費無料(幼児は保護者同伴でお願いします)。

参加 無料★

団 児童館(☎82-3402)・図書館(☎82-4800)

- ▼特定健診を受診していない人
- ▼料金 500円
- ※受診できる医療機関一覧は、受診券と同封して送付します。
- ▼役場住民課保険年金係
- (☎82-5966)
- ▼福岡県生活支援ボランティア養成研修
- 身近なボランティア活動にチャレンジしませんか。
- ▼対象者 県内在住でボランテ

- ▼イヤに関心がある人
- ▼活動例 買い物、話し相手、ゴミ出し、電球交換など
- ▼研修日 平成28年2月3日(日) 10時〜16時
- ▼ところ 飯塚研究開発センター(飯塚市)
- ▼定員 50人(先着順)
- ▼申込期限 平成28年1月7日
- ※詳しくは問い合わせください。
- 団 公益財団法人総合健康推進財

町をもっと好きになるアプリ

i 広報紙を利用していつでも町の情報をチェック

QRコードを読み取ってね

町が毎月発行している「広報そえだ」がいつでもどこでもチェックできるアプリ「i 広報紙」が、もっと便利にリニューアルされました。この機会にダウンロードしてみませんか。

1 役立つ行政情報を見逃さない!

2 自分に合わせた情報が届く!

3 他の自治体の広報紙も読める!

アプリ配信数 全国 No.1

※弊社調べ

※旧アプリでは最新号の配信がされません。
※広告が表示されますが、自治体とは関係ありません。

団 株ホープ(☎092-716-1404) 役場情報広報課(☎88-8444)

人の動き

10月末日現在（ ）は前月比

- 人 口 10,558 人（－12人） ●出生 5 人
- 男 性 4,966 人（－7人） ●死亡 16人
- 女 性 5,592 人（－5人） ●転入 23人
- 世帯数 4,858 世帯（－4世帯） ●転出 24人

相談

- 心配ごと相談（そえだジョイ／10時～15時）
12月15日 ㊗・1月5日 ㊗
- 補聴器相談（役場ロビー）
12月9日 ㊗（13時～13時45分）
12月11日 ㊗（15時～16時）
- 女性の健康相談・不妊相談（福岡県嘉穂・鞍手保健福祉環境事務所／要予約）
28年1月6日 ㊗（13時30分～16時30分）
㊗ 福岡県嘉穂・鞍手保健福祉環境事務所健康増進課健康増進係（☎ 0948-29-0277）

事件事故発生状況

10月の事件発生状況（ ）内は昨年同月比		
種 類	発生件数	今年の累計
自動車盗・オートバイ盗	0（－3）	0（－1）
性犯罪	1（＋1）	2（＋1）
車上ねらい	0（－1）	3（＋1）
空き巣・忍び込みなど	0（－1）	8（－10）
10月の事故発生状況（ ）内は昨年同月比		
種 類	発生件数	今年の累計
事故発生（物件＋人身）	12（＋1）	138（＋13）
死亡者	0（±0）	0（±0）
負傷者	1（±0）	31（＋4）

休館

- クアハウス（☎ 82-5061）
館内清掃、機械点検のため、
12月21日 ㊗～24日 ㊗の間、休館します。
- ひこさんホテル和（☎ 85-0121）
12月7日 ㊗～10日 ㊗の間、休館します。
- しゃくなげ荘（☎ 85-0123）
12月14日 ㊗～16日 ㊗の間、休館します。

錦風荘調理員募集

- ▶資格 不要。調理経験不要
- ▶日給 6,400 円
- ※詳しくは問い合わせください。
- ㊗ 錦風荘（☎ 82-0643）

編集後記

▶70年前の悲劇、語り継ぐべき歴史の証言を聞きました。取材に協力いただき、ありがとうございました（小林）



●水中運動で正月太りを解消しませんか クアハウス運動教室

- 期間 平成28年1月12日 ㊗～3月18日 ㊗
- ダイエット・筋力アップ教室 毎週 ㊗・㊗
①11時～12時、②14時30分～15時30分
- 腰・肩・膝痛予防教室 毎週 ㊗・㊗
①11時～12時、②14時30分～15時30分
- ※参加費無料（ただし、施設利用料はかかります。）
- ㊗ クアハウスハビネス（☎ 82-5061）

餅つきは大人も子どもも自由参加ですが、午前中に餅の仕込み作業をする「児童館餅つき子どもスタッフ」は事前に申し込みが必要です。

▼とき 12月26日 ㊗ 11時

▼ところ 町立児童館

※詳しくは問い合わせください。

㊗ 児童館（☎ 82—3402）

認知症の母との毎日
映画会に来てみませんか

認知症の母、みつえとの愛おしくてホロリ切ない毎日を描いた映画を上映します。無料ですので、気軽にお越しください。



▼とき 12月6日 ㊗ 13時30分

▼ところ オークホール

▼上映作品 ペコロスの母に会いに行く

▼入場料 無料

㊗ 添田町活性化推進協議会廣田さん（☎ 090—1875—3111）

添田町プレミアム地域商品券有効期限は1月4日 ㊗まで

添田町商工会が7月に発売した「添田町プレミアム付商品券」の有効期限は平成28年1月4日 ㊗までです。早めに利用してください。

㊗ 添田町商工会（☎ 82—0244）



平成27年度 成人式

～二十歳の再会～

●とき 1月10日 ㊗
受付13時 開式13時30分

●ところ オークホール

●対象者 平成7年4月2日～平成8年4月1日までに生まれた人
※該当者には案内通知を送付します。
※家族の皆さんも式典会場へ入ることができます。

㊗ 役場総務課総務係（☎ 82-1231）

四郎（田川市）▽佐渡光昭（糟屋郡）

○特別養護老人ホームそえだへ慰問 ▼赤間徳夫（岩瀬）▽高橋浩月（町四）▽坂本泰子（峰地）（平成27年11月14日現在）

ありがとうございました（敬称略）



▼記帳内容 売り上げなどの収入金額、仕入れやその他の必要経費に関する事項

▼帳簿等の保存 収入金額や必要経費を記載した帳簿や取引の際に作成・受領した納品書、請求書、領収書など

※詳しくは国税庁ホームページを確認するか、最寄りの税務署に問い合わせください。

㊗ 田川税務署（☎ 44—0430）

公的個人認証サービスの電子証明書更新はお早めに

住民基本台帳カードに搭載される電子証明書の発行・更新は、

現在住んでいる住宅の規模や設備、家賃の負担状況、高齢者世帯の状況などの項目を点数化し、点数の高い世帯から優先的に入居者を決定する方式です。

ポイント方式
県営住宅入居者募集



福岡県特定最低賃金改正

12月10日から、福岡県の特定最低賃金が改正されますのでお知らせします。

▼金額 ▼製鉄業、製鋼・製銅 庄延業、鋼材製造業Ⅱ1時間

㊗ 県住宅供給公社県営住宅管理部（☎ 092—781—8029）

児童館のもちつき大会に参加しませんか

シニアパワーアップ塾の皆さんと餅つき体験をしませんか。

▼効力発生日 12月10日 ㊗

㊗ 福岡労働局労働基準部賃金課（☎ 092—411—4578）

お知らせ

白色申告の人は記帳・帳簿等の保存が必要です

入金額、仕入れやその他の必要経費に関する事項

▼帳簿等の保存 収入金額や必要経費を記載した帳簿や取引の際に作成・受領した納品書、請求書、領収書など

※詳しくは国税庁ホームページを確認するか、最寄りの税務署に問い合わせください。

㊗ 田川税務署（☎ 44—0430）

12月22日 ㊗をもって終了します。有効期間を確認し、手続きをお願いします。

㊗ 役場住民課戸籍住民係（☎ 82—1233）

▼申込受付期間 平成28年1月12日 ㊗～20日 ㊗

▼募集案内配布場所 役場住環境整備課、県住宅供給公社ほか

※募集团地など詳細は問い合わせください。

㊗ 県住宅供給公社県営住宅管理部（☎ 092—781—8029）

一年末・年始一 業務と休み

役場や各機関の年末年始の業務と休みは次のとおりです。お間違えないようにお願いします。



役場・各関係機関 代表（☎ 82-1231）	仕事納め／12月28日(月) 仕事始め／1月4日(月)
図書館・児童館 (☎ 82-4800、82-3402)	休館日／12月27日(日)～1月4日(月)
英彦山スロープカー (☎ 85-0375)	運行時間 12月31日(木) 8時40分～15時10分・22時～3時10分 1月1日(祝) から通常営業
そえだジョイ (☎ 82-5600)	休館日／12月28日(月)～31日(木) 1月1日(祝)～3日(日)の受付は13時～16時 事務局／12月29日(火)～1月3日(日)は休業
歓遊舎ひこさん (☎ 47-7039)	休館日／12月31日(木)～1月1日(祝) 1月2日(土)～3日(日)の営業は10時～16時
しゃくなげ荘 (☎ 85-0123)	通常通り営業（入浴10時～21時）受付20時まで
ひこさんホテル和 (☎ 85-0121)	通常通り営業（立寄り湯11時～16時）
クアハウスハビネス (☎ 82-5061)	休館日／12月29日(火)～1月3日(日) 12月28日(月)は10時～17時
町バス (役場施策推進係／☎ 82-5965)	運休日／12月29日(火)～1月3日(日) ※彦山線は12月29日(火)・30日(水)は運休で、 31日(木)～1月3日(日)は土・日・祝日の時刻表で運行します。
ごみ収集 (役場環境保全係／☎ 82-1232)	定休日／12月29日(火)～1月3日(日) ※個人でごみをじん芥処理センターへ持ち込みできるのは12月28日(月)の16時まで。 年始は4日(月)から。
し尿くみ取り	定休日／12月31日(木)～1月5日(火) ※12月30日(水)までのくみ取りは、 12月18日(金)までに予約をしてください。 ㊗ 南桑野衛生（☎ 82-2288） (有)添田環境サービス（☎ 82-0450） 松村産業(株)（☎ 32-3182）
水道当番	12月29日(火)／(有)毛利管工（☎ 82-1023） 12月30日(水)・1月2日(土)／(有)筑添建設（☎ 82-4661） 12月31日(木)／(有)畠田建設（☎ 82-5857） 1月1日(祝)／(株)森下組（☎ 82-0174） 1月3日(日)／安藤水工（☎ 85-0527）
田川地区斎場 (☎ 42-8002)	定休日／1月1日(祝)
田川地区急患センター (☎ 45-7199) ※保険証を忘れずに	診療日／12月31日(木)～1月3日(日) 受付時間／【内科・小児科】9時～12時、 13時～17時、18時～23時 【外科】9時～12時、13時～17時
犬の捕獲 飼い犬・飼い猫の 引き取り	野犬などの捕獲／12月16日(水)まで ※年始は1月4日(月)からです。 飼い犬などの引き取り／12月16日(水)まで ※年始は1月4日(月)からです。 ㊗ 福岡県田川保健福祉事務所（☎ 42-9309）



◇発行／添田町 ◇編集／情報広報課
〒824-0691 福岡県田川郡添田町大字添田 2151 番地
☎0947-82-1231 光電話 050-6621-4309 FAX0947-82-2869
ホームページ <http://www.town.sosedai.tokuoka.jp>

◇印刷／丸五印刷株式会社
※広報そえだは再生紙を使用しています

フォトレポート

第41回 添田町 総合文化祭



11月7日と8日の2日間、オークホールで、添田町文化連盟主催の、第41回添田町総合文化祭が行われました。日々の制作や稽古に励んできた集大成を発表する文化祭。ステージでは、社交ダンスや日本舞踊、楽器の演奏などが華々しく披露され、ロビーなどではパッチワークやさげもん、アクセサリーなどの手芸の作品展示が、会場に訪れた多くの人を魅了していました。



広報そえだ 町長室

12月師走。今年も残すところ一ヶ月となった。人口減少対策、地域戦略策定に明け暮れた一年であったように思える。▼人口減少に歯止めをと、若者定住のための雇用創出、住宅施策等行ってきた。雇用については、なかなか思うようには行かない。他力本願的一年であり「めんべい」さんに貢献して頂いている。英彦山工場、添田町工場でパートの方を含め約80名近くの方に働いてもらっている。この春からはいよいよ待望の福太郎女子ソフトボールチームの若い社員が、添田町工場売店横に出来た寮に13名近くが来るそうだ。▼添田町自身も頑張っている。農業後継者も少しずつはあるが育っている。若者定住は、ファミリー団地が着々と出来上がっている。つい先日、入居予定の二家族に同じ日に子どもさんが誕生したとの話を聞いた。こども若い家族が18名程度増えてくる。10月に行われた国勢調査には反映されていないが、これらを合わせると30名近くの人口増である。▼しかし、今年も多くの方が亡くなった。転出者も多くいた。この点の対応をしないと、増えた意味がない。▼転出に関する意識調査を行った。転出のきっかけの多くを占めていたのが、親や子どもと同居・近居のため町外へ引越していくであり、36%と多かった。一人暮らしや高齢での夫婦二人暮らしは、本人にとっても、また町外にいる子どもにとっても心配なのである。一人でも夫婦二人でも、高齢になっても添田町に住み続けられる環境づくりが必要であり、どのような施策が考えられるのか模索している。▼次に、添田町の住み良さはどうだったかを転出した方に点数を付けてもらった。住み良さの評点は、可もなく不可もない平均の3.3点(5点満点)であったが、交通の利便性、買い物の利便性には住みにくさを感じていたようである。機会があればもう一度添田町に住みたいと思うかも質問してみた。半数の51%が住みたいと答えてくれた。その中でも20〜30代のUターン意向が最も高かった。▼この調査では、施策の方向が見えてくる。健康を維持して貰うには、みんなで助け合いながら、健康で長生きしてもらう施策、元氣倶楽部、健康ポイント制、買い物支援など地道に推進していかなければと思っている。また、20〜30代が帰って来るような、例えばIT産業等の仕事を模索しなければと思っている。この1年を振り返り、新しい年に向けた一年にしたい。これからも、町民の皆様の変わらぬご支援ご指導をお願いして、今年の報告を終わります。